

編集後記

GW 末から「梅雨の走り」と呼ばれる梅雨入りしたような天気が続いています。角界ではモンゴル勢と欧州勢が活躍するなかで雅山が頑張りましたが、結局、夏場所もモンゴル勢に優勝をさらわれました。また、本号が発行される頃には、ワールドカップの決勝トーナメントが始まっています。日本代表の大活躍を期待したいところです。

ところで近年、土木史の掘起こしや土木関係の偉人伝の出版が相次いでいます。私も近年、建設機械の歴史を調べていて、驚くべき発見がありました。

明治草創期から建設機械が輸入され、明治29年の河川法制定から我が国の建設機械化が本格化したのは広く知られています。この時期の陸上土工機械は、バケットラダーエキスカベータとトロ牽引の土工機関車です。明治末期からは、スチームショベルが輸入され始めますが、土運搬の主役は軽便軌条が終戦まで続きました。

ブルドーザやスクレーパは、戦前、満州（中国東北部）の一部や戦時中に航空基地建設のために軍関係で研究・製造されましたが、排土板やスクレーパ系の機械は、一般には戦後初めて導入されたものです。ところ

が最近驚かされたことに、排土板装着機械が大正9年から始まった嘉南大洲山頭ダム建設で使われていたことです。機関車押しのアングルドーザ装着車両です。

二つ目は、スチームショベルです。明治末期から大正末期にかけてピサイラス社やエリー社のものが輸入され、昭和に入るとディーゼルショベルが輸入されています。

大型のものでは、戦後輸入されたピサイラスの150Bが有名ですが、驚くべきことに大正10年にピサイラスの6yd³超大型スチームショベル225Bと5yd³の110C型が輸入され、海軍工廠敷地開削工事に使われていることでした。一般の建設機械史に記載されていないエポックはまだまだありそうです。

さて、6月号は「リサイクル特集」です。循環型社会形成推進のための取り組みとして、建設部門では建設リサイクル法が平成12年に制定され、建設ゼロ・エミッションを目指しています。コンクリート塊・アスファルト塊は、ほぼ全量リサイクルが達成されていますが、建設発生木材、混合廃棄物等のリサイクルが課題です。

今回は、これらの最新話題や動向を取上げ、執筆を依頼致しました。ご多忙中にもかかわらずご執筆頂いた方々に心底より御礼申し上げます。

(三柳・岡本)

機関誌編集委員会

編集顧問

浅井 新一郎	石川 正夫
今岡 亮司	上東 公民
岡崎 治義	加納研之助
桑垣 悦夫	後藤 勇
佐野 正道	新開 節治
関 克己	高田 邦彦
田中 康之	田中 康順
塚原 重美	寺島 旭
中岡 智信	中島 英輔
橋元 和男	本田 宣史
渡邊 和夫	

編集委員長

村松 敏光

編集委員

清水 純	国土交通省
浜口 信彦	国土交通省
照井 敏弘	農林水産省
夏原 博隆	鉄道・運輸機構
岩本 弘之	中日本高速道路
新野 孝紀	首都高速道路
坂本 光重	本州四国連絡高速道路
平子 啓二	水資源機構
吉村 豊	電源開発
松本 敏雄	鹿島
和田 一知	川崎重工業
岩本雄二郎	熊谷組
嶋津日出光	コベルコ建機
金津 守	コマツ
山崎 忍	清水建設
村上 誠	新キャタピラー三菱
星野 春夫	竹中工務店
銅冶 祐司	東亜建設工業
中山 努	西松建設
森本 秀敏	日本国土開発
斉藤 徹	NIPPO
吉越 一郎	ハザマ
三柳 直毅	日立建機
岡本 直樹	山崎建設
小野 秀一	施工技術総合研究所

7月号「防災特集」予告

- ・高精度 GPS による地震予知技術
- ・道路・橋梁の防災技術
- ・福岡県警固断層の地下構造調査
- ・振動台による粒状改良土の耐液状化性能確認実験
- ・移動式防災拠点
- ・JCMA の支援体制と取組み
- ・衛星情報による災害解析手法の紹介
- ・事業継続計画 (Business Continuity Plans) 概論

No.676 「建設の施工企画」 2006年6月号

(定価) 1部840円(本体800円)
年間購読料9,000円

平成18年6月20日印刷

平成18年6月25日発行(毎月1回25日発行)

編集兼発行人 小野 和日児

印刷所 株式会社技報堂

発行所 社団法人日本建設機械化協会

〒105-0011 東京都港区芝公園3丁目5番8号 機械振興会館内

電話 (03) 3433-1501; Fax. (03) 3432-0289; <http://www.jcmanet.or.jp/>

施工技術総合研究所	〒417-0801 静岡県富士市大淵 3154	電話 (0545) 35-0212
北海道支部	〒060-0003 札幌市中央区北三条西 2-8	電話 (011) 231-4428
東北支部	〒980-0802 仙台市青葉区二丁目 16-1	電話 (022) 222-3915
北陸支部	〒950-0965 新潟市新光町 6-1	電話 (025) 280-0128
中部支部	〒460-0008 名古屋市中区栄 4-3-26	電話 (052) 241-2394
関西支部	〒540-0012 大阪市中央区谷町 2-7-4	電話 (06) 6941-8845
中国支部	〒730-0013 広島市中区八丁堀 12-22	電話 (082) 221-6841
四国支部	〒760-0066 高松市福岡町 3-11-22	電話 (087) 821-8074
九州支部	〒810-0041 福岡市中央区大名 1-8-20	電話 (092) 741-9380